

# ほけんだより

平成 22 年 2 月 22 日  
南部小学校 保健室

## 2月18日 (木) 第2回学校保健委員会がありました

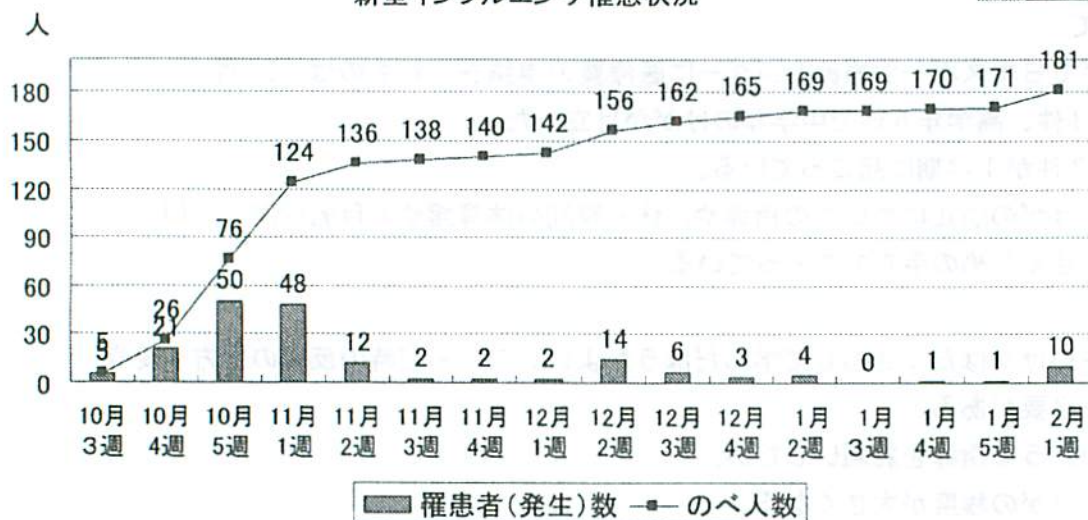
学校保健委員の皆様には、お忙しい中ご参加いただきまして大変ありがとうございました。抜粋になりますが、話し合いの内容をご報告いたします。



### (1) 2学期以降の子どもたちの健康について

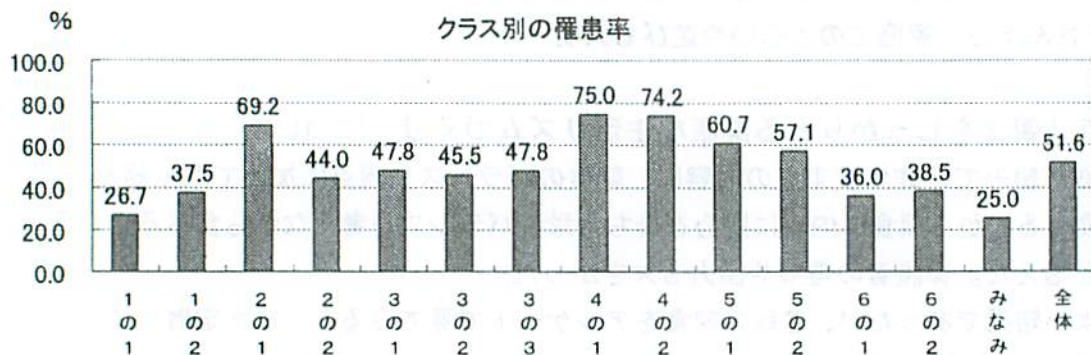
#### ① 新型インフルエンザの流行と対応について

新型インフルエンザ罹患状況



右のグラフは2月5日現在の状況で、罹患者は181人。2月18日現在ではさらに増え、のべ184人(52.4%)が罹患した。1、2月の予防接種後にも集団感染があったが、現在は罹患者0である。

クラス別の罹患率



市全体では、およそ1400人の児童生徒が罹患し、罹患率は40%ぐらいになるということです。

#### ◎ 横山校医の先生より

- ・ インフルエンザの予防接種は、重症化を防ぐという意味がある。予防接種をしたからといってかからないわけではない。季節性のインフルエンザも同じである。
- ・ インフルエンザのウィルスは少しずつ形を変えていくため、予防接種をしても3~6ヶ月くらいしか効果はない。これからも罹患することがありうる。(2回かかっている人もでている)
- ・ 今現在、季節性のインフルエンザはほとんど出ていない。今後の動向もわからない。
- ・ 新型インフルエンザは少しずつ残っていくであろうが、爆発的に増えることはないと思われる。ただし、2年目に毒性を増す可能性がある。症状も同じとは限らないので注意が必要。

#### ◎ 佐藤学校薬剤師の先生より

- ・ 湿度を上げる取り組み(ぬれタオルを干す、霧吹きを使うなど)を南部小ではいろいろやっているが、罹患率は高かった。

→ 南部小の子どもたちは交流がさかんである。元気がいいということでもある。



## ②歯の健康について

- ・ 臨時歯科検診の結果、むし歯があった人は  
乳歯のむし歯がある人 57人(16.2%)で、永久歯のむし歯がある人 41人(11.6%) である。
- ・ 6月の検診でみつかったむし歯の治療がまだすんでいない人が多い。治療率 41.9%。
- ・ 臨時歯科検診(11月)でみつかったむし歯の治療率も、2月現在 36.3%と低い。

### ◎ 高橋歯科校医の先生より

- ・ 小学校の6年間で全部の歯が生え変わる。とても大事な時期である。この時期にむし歯が少なくすむと、一生少なく過ごせるといわれている。今あるむし歯は必ず治療することが大切。
- ・ 学校での検診では、治療の必要があるものだけ(専門医に診てもらふ必要のあるものだけ)を指摘している。家庭の関心を高め、必ず受診してもらふように働きかけを工夫してほしい。

## ③学校でのけがについて

- ・ 今年度、学校でのけがで日本スポーツ振興センターに医療費の申請をしたものは、24件あった。
- ・ 低学年5件、中学年13件、高学年6件で中学年のけがが目立った。
- ・ 全体の半数にあたる13件が1学期に起こっている。
- ・ 生徒指導部を中心に、けがの防止についての指導や、休み時間の体育館や多目的教室の使用について検討し、再発をふせぐための手立てをとっている。

### ◎ 委員の方々より

- ・ 小さいうちから、小さいけがはたくさんして学んだほうがよい。ころんだ時の反応の仕方や受身も学ばせたり、教える必要がある。
- ・ スポ少でもけがのないような指導をお願いしたい。
- ・ 上の学年になるほど、けがの程度が大きくなる。
- ・ 地域でも大きい子と小さい子がいっしょに遊ぶことが少なくなっているが、その中で子どもたちは学ぶことがたくさんある。家庭での手伝いや遊びも大切。

## (2) 今年度の重点「朝食をしっかりとる健康な生活リズムづくり」について

- ・ さわやかカードの取り組みで、昨年度までの内容に、朝食のバランスも視点に加えて取り組んだ。その結果、ただ「食べる」から朝食の内容に関心を持ち、栄養バランスを考えながら食べるという意識をもつ子どもが増えた。保護者の理解や協力も大きかった。
- ・ がんばり週間中はよい結果であったが、普段の朝食をアンケートで見ると、まだ定着しているとはいえない。継続して取り組んでいく。

### ◎ 委員の方々より

- ・ 毎朝、3色(きいろ・あか・みどりの食べ物)がそろう家は、三世代同居の家が多いのではないかと。三世代の家族だと、必然的に品数は多くなっている。
- ・ 早寝、早起きができないという子どもについて、テレビやゲームなどを何時まで見ているかなどについて調べてみるとよい。
- ・ 毎日食事はしっかりとっている。インフルエンザにもかからなかった。食事で免疫力が高まった。
- ・ 子どもから教えられる。カードを通して、子どもとのコミュニケーションがとれた。
- ・ 高学年の子どもがおり、寝るのが遅く朝はギリギリ。改善したい。
- ・ 子どもの体温が低いのが気になっている。低体温だと免疫力が落ちる。

など、多くのご意見やご感想をいただきました。今後の取り組みの参考にさせていただきます。



## 第2回学校保健委員会 記録

H.22.2.18

進行 土田

記録 渋谷

### 1. 開会の挨拶（PTA会長）

### 2. 校長挨拶

- ・ 新型インフルエンザへの対応により、重症化することがなかった。
- ・ 今年度の重点「バランスのよい朝食」について指導を行ってきた。
- ・ 子どものけがの多発について、分析し対策を話し合い進めている。

### 3. 委員長挨拶は田村校医欠席のため、なし

### 4. 話し合い 座長：横山耳鼻科校医

#### (1) 2学期以降の子どもたちの健康について

##### <新型インフルエンザの流行について>

(横山校医より)

予防接種をしても罹患していることに関して、予防接種は重症化を防ぐという意味がある。予防接種をしたからといって感染しないわけではない。季節性のインフルエンザについても同じ。ただし、インフルエンザのウィルスは少しずつ形を変えていくため、3～6ヶ月くらいしか効果がない。同じA型でも2種類あり、2回感染したりすることもある。

今現在、季節性のインフルエンザはほとんど出ていない。どうなっていくかもつかめない。新型インフルエンザはこれからも少しずつ残っていくであろう。しかしA型が爆発的に流行することはないであろう。

以前流行したスペインかぜは1年目は死亡者はほとんどなく、2年目になって4000～6000万人の人が亡くなっている。今回の新型インフルエンザも2年目に毒性を増す可能性もある。今年と症状が同じであるとも限らない。

南部小学校の罹患率52%というのは、他校と比べてどうなのか？

(市教委 笹原氏) 少し多いと思われる。市全体では、ほぼインフルエンザであるということも含めて、40%前後。人数にして1400名前後が罹患している。

(佐藤学校薬剤師) 学校(教室)の湿度について、他校ではどうか？加湿器などを設置しているとか。加湿器と罹患率との関係は？

(市教委 笹原氏) 加湿器などは各学校で。市で全部設置しているということはない。予算もない。

(佐藤学校薬剤師) 南部小学校では濡れタオルを教室にかけたり、霧吹きを使って湿度を上げるようにしているが罹患率は他校より高い。なぜなのか？

(校長) 南部小の子どもたちは交流がさかんである。それも原因なのでは。

##### <歯科について>

(教頭) う歯の治療率の低さについて、高橋先生にお聞きしたい。

(高橋歯科校医) 治療率41%は低い。治療勧告書を出して終わりではなく、～日まで診てもらってくるようにと期限を決めて出すとよい。勧告書がかえってくるまでしっかりチェックする。

小学校の6年間は歯が全部生え変わる大事な時期。この時期にむし歯が少なく過ごせると、一生

少なく過ごせるといわれる。この時期、むし歯はしっかりと治療することが重要。家庭に対しても関心をもってもらおう（親のデンタルIQを上げる）よう、働きかけを工夫していく。

#### <学校でのけがについて>

- (兼子) 4、5月にけがが多発したため、「けがの原因」と「指導内容」を記入し、ファイルにした。学校での約束事についても、その場所に行き指導した。1月に遊びでのけがが連続して起こったことから、学年に応じてどんな遊び方がいいのか考えさせ、話し合いを持った。職員も休み時間に遊び方を観察した。
- 多目的教室や体育館の遊び方について、スペースを区切る、低中高に分けて人数を少なくするなどしている。その他「自分もまぜて」と一緒に遊んだり、ゆずることも大切といった指導もした。
- (高橋歯科校医) 小さなけがはたくさんさせて学ばせる。転んで骨折するというのは、受身ができないのではないかな。
- (大江) ころぶなど、ある程度のけがは必要。無理して遊びや場所を制限するより、ころんだ時に反応の仕方も学ばせていく、教える必要がある。
- (校長) 子どもの仕事は勉強と遊び。遊びを制限するのではなく、思いきり遊べるための方策を職員に考えてもらった。

#### (2) 今年度の重点「朝食をしっかりとる健康な生活リズムづくり」について

(横山校医) 3色食べている家庭は三世代家族が多いのではないかな？

(菖蒲) 実のところ、カードがあったからというのはある。自分の家も三世代同居で、祖父母の食べるものも作るし、子どもたちが食べるものも作るため、必然的に品数は多くなる。

(横山) 家庭の形態によるところもあるので、個別的に指導するとよい面もあるのではないかな。

#### (3) 各指導の取り組みについて

<体育> <食育> <安全>

(沖津) 避難訓練、マナー化しないようにとあったが、島地区で県の起震車を呼んで体験したことがある。学校でもやってみてはどうか？

#### 5. 報告 <環境衛生検査結果について>

(佐藤学校薬剤師) 照度検査をはじめて1月に実施して、うす暗いのがわかった。

空気中の炭酸ガスが増えると、頭が朦朧としたり、集中力がなくなったりする。それよりも、子ども達が登下校する時のダイオキシンの方が恐ろしい。南部地区の空気はきたないと感じる。においも気になる。新築の家の暖炉、農家の野焼き、ストーブや風呂をたく・・・原因はいろいろ。ダイオキシンは一度体の中に入ると消えることはない。ガンになる。もっと意識をもってほしい。

#### (4) 校医の先生方からのご指導・参加者の感想

(高橋校医) はやね・早起きの指導で、テレビやゲーム、ケータイなどを何時まで見ているかなどのデータはとって見たことは？

(永田) 1学期とったアンケートは、「ゲームなどを何時間しているか」といったもの、～時までというのとはとっていない。

(高橋校医) おそく寝る子は何をしているか、原因も調べてみてはどうか？また、ダイオキシンはど



こかで測ってくれるのか？数値がわかればよい。ぜひ市教委で。

(笹原) 伝えておきたい。けがについて、スポーツ振興センターへは市全体で年間 250 件の申請があった。上の学年になるほどけがの程度が大きいものが多くなる。小さいうちからどこまでいけば危ないなどを自分で考えられるように。地域でも大きい子、小さい子はまざって遊ぶ経験も大切。家庭での手伝いや運動の経験も大切である。

(沖津) 学校でのけがよりも、スポ少でのけがが気になる。スポ少の指導者にもけがのない活動を・・・と申し入れしたい。

(五十嵐PTA会長) 早寝・早起き・食事などで免疫力を高めることも大切。インフルエンザの予防にもなるのでは。

(横山校医) インフルエンザにかかるかどうかは、免疫力の差。

(佐竹PTA副会長) 登下校中のけがはどうか？朝はきちんと並んで歩いているが、帰りは2、3列になっている子が見られる。

(大江PTA副会長) 自分が子どものころの生活とは違ってきている。朝ごはんをバランスよく・・・などは自分ではできなかったが、今は学校で指導してもらっていて安心している。逆に子どもに教えられている。そこからコミュニケーションもとれている。我が家では朝ごはんは家族みんなでとるようにしている。

(高橋体育部長) 安心してマスクをはずしたとたん、新型インフルエンザにかかってしまった。予防接種のことがよくわかった（この会議で）。

早寝・早起き・朝ごはんについて、自分の家も夜おそく、朝はギリギリで朝ごはんも・・・改善していきたい。

(菖蒲) 毎朝検温しているが、低いと感じる。朝から体温が上がると学力も上がる・・・など聞いたことがあるが、朝のうちから体温が上がるようにするためにはどうすればいいかなど、おたよりなど出していただければうれしい。

(横山校医) 低体温は免疫力がおちる。個人差があるが、有熱者というのは37.5℃以上をいう。

## 6. 閉会の挨拶（PTA会長）